

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成25年度

KTC授業アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

金沢工業高等専門学校

平成25年度KTC授業アンケート調査結果について

英語の「Stakeholder(：出資者)」という単語はギャンブルに由来するものです。「stake」とはギャンブルする人のお金または財産を意味し、そしてその同じ単語が金融では投資を意味しています。教育には様々なstakeholdersが関与しています。例えば、学生、保護者、卒業生の雇用主、社会などが一般的にあげられるのです。教職員も全てが、教育プロセスの実行や結果に「stake」を有しているわけです。学生は必ずしも自分で自由に選んだとは限らない活動、すなわち学校が選んで用意した活動に彼らの一生のうちの何年もの時間を毎日のように費やすことから、学生にとって「stake」は特に大きな存在なのです。

学生はその結果、つまり「賞」が投資(stake)に値するかどうかすぐにはわからないかもしれません。大人として社会経験を何年も積んでから初めて、教育の価値を高く評価できるようになるでしょう。たとえそう出来るようになるとしても、学習者は少なくとも自分の学習の短い期間で出る成果をよく見抜いており、学生自身の感情や反応は特に学習プロセスとそのプロセスの結果の有効性を見る大切な機会になります。そして学生の学習経験に対する反応は、プログラムの有効性を強調する前向きな経験につながったり、あるいはプログラムを妨害する後向きな経験へとつながることになるのです。

もともと、それぞれの知識には退屈だとか面白いというものはないのではないのでしょうか。何かがつまらないとか面白いというのは、学習者が修得した知識や洞察力や技能によって決まるのではないのでしょうか。したがって、学習者の関心を最大限に高めるために学習経験を体系化することは重要です。学生にとって自分が進歩している、また学習しながら成長していると感じられることは大切なことなのです。

以上のことから、授業アンケートは学校が学生たちに提供する学習活動や経験の価値と有効性を評価するための非常に重要な手段になります。この授業アンケートは現在の結果を精査する一手段となっており、教育プログラムを改善するために試みがなされた際にそれによる変化を追跡することをも可能にしています。

言うまでもないことですが、このデータは外部認証のために欠かすことのできないエビデンスになります。同時に、CDIOスタンダードに基づき、わたしたちのプログラムを継続して改善していくために、そして何よりも本校の学生たちに最善の教育を提供するために、私たちはこのデータを注意深く分析していかなければなりません。

ここにKTC教育評価委員会、教員の方々、学生、そしてこの調査を協力していただいた全ての方々に感謝を記したいと思います。

平成26年5月

金沢工業高等専門学校
校長 ルイス・バークスデール

全体概略

1)調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は、金沢高専の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、金沢高専全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 調査終了直後に作成した「速報版」は各科目の担当教員が個別に1年間の授業の評価を振り返るためのものであるが、本報告書は全体の傾向を分析し、全体的な改善の方向性を検討するためのものである。

2)調査の概略

H25年度の調査の概略は下記の通り。

項目	内容		
分析データ件数 対象者		H25年度のべ回答数	H25年度在校生数
	1年生	1,531件	120名
	2年生	1,677件	129名
	3年生	1,487件	109名
	4年生	1,855件	104名
	5年生	1,038件	76名
	全体合計	7,588件	538名
	・最終回収数は7,651件であったが、回答者数が10名未満など、一部の科目(12科目、63件)は集計から除外している。		
対象科目	230科目		
実施方法	・各授業の最終日に20分程度の記入時間をとって行った。 ・調査票は学生が回収し、教員ではなく事務局に届けるものとした。 ・回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。		
調査主体	学校法人 金沢工業大学		
集計	有限会社 アイ・ポイント		

3)実施スケジュール

H25年度の調査のラフスケジュールは下記の通り。

作業	ステップ	時期	備考
速報版作成作業	調査実施	2月3日～2月12日	各授業の最終日に実施
	データ入力	2月5日～2月13日	OMRにより処理
	速報版完成(4年生以外)	2月27日	4年生以外のデータは2/18に受け取り
	速報版完成(4年生)	3月11日	4年生のデータは3/10に受け取り
最終報告書作成作業	報告書作成	4月15日	

4)集計に関して

1. 加重平均:各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。選択肢が「そう思う～そう思わない」などのような段階的な選択肢を用いた。加重平均はこれらの選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。無回答は回答者数に含めていない。
2. 学科別の集計は「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報工学科」の3つの学科で比較を行った。
3. 部会は「一般」「語学」「数理」「T(電気電子工学科)」「M(機械工学科)」「G(グローバル情報工学科)」の6つとした。
4. 回答者数が10名未満などで除外した科目(12科目、63件)は下記となる。

●OP科目

- 35202:材料力学Ⅰ(OP):3名
- 35262:機械設計(OP):3名
- 38133:情報処理Ⅲ(OP):8名
- 38143:ビジネスシステム(OP):8名

●旧カリ科目

- 15012:応用数学(旧カリ):1名
- 16042:機械材料(旧カリ):1名

●4名、6名、7名といった科目(10名未満の科目)

- 24051:システム制御(4名)
- 24091:ソフトウェア工学(6名)
- 26012:応用物理Ⅰ(7名)
- 26032:計測制御Ⅱ(4名)
- 29083:カレントイングリッシュ(9名)
- 22039:文化・芸術・思想ⅡB(9名)

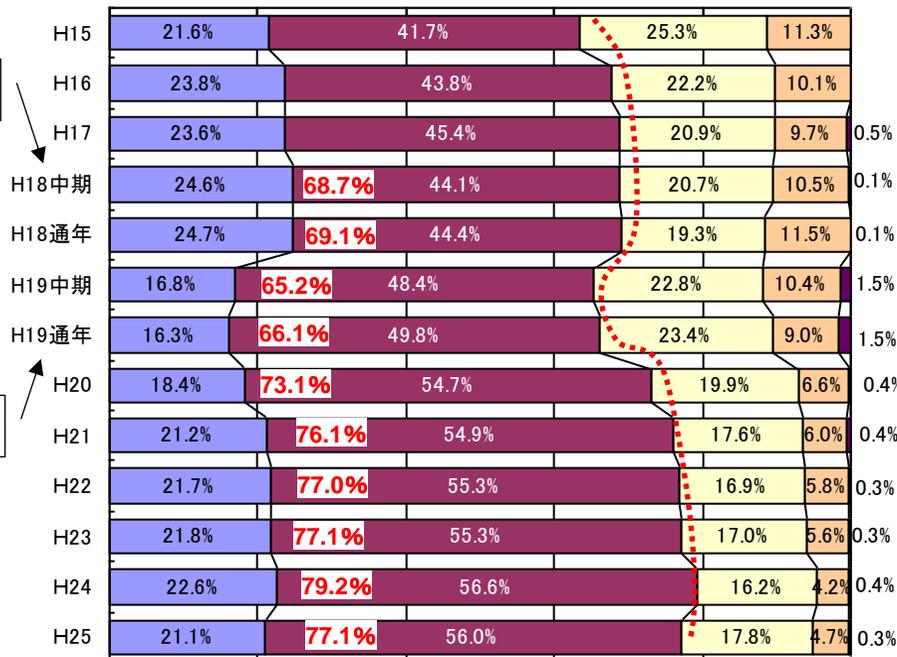
基本的な集計

1) 授業への取り組み姿勢

- 「A. 授業への興味(あなたは、この授業に興味を持って受けられたと思いますか?)」という問いに関しては、「そう思う」が21.1%、「まあそう思う」が56.0%であり、77.1%が授業に興味を持って受けたと答えていた。
- 現在のアンケートの形式になったH20以降は継続的に興味を持っている学生が増加してきており、前回は79.2%とこれまでで最も高くなっていたが、今回は前回は2.1ポイント下回っており、H20以降では初めて前年を下回る結果となっていた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間(この授業に対し宿題を含めて、どの程度予習・復習しましたか?)」では「60分以上」が9.7%、「30～60分」が17.6%、「0～30分」が16.7%であり、ここまでの合計は44.0%であった。
- これまでと比較すると「60分以上」「30～60分」「0～30分」の合計(44.0%)は前回の40.2%を3.8ポイント上回っており、自宅での勉強時間は延びているようであった。ただし、「しなかった」は20.1%であり、以前と比べて大きな変化は見られなかった。

■ A. 授業への興味

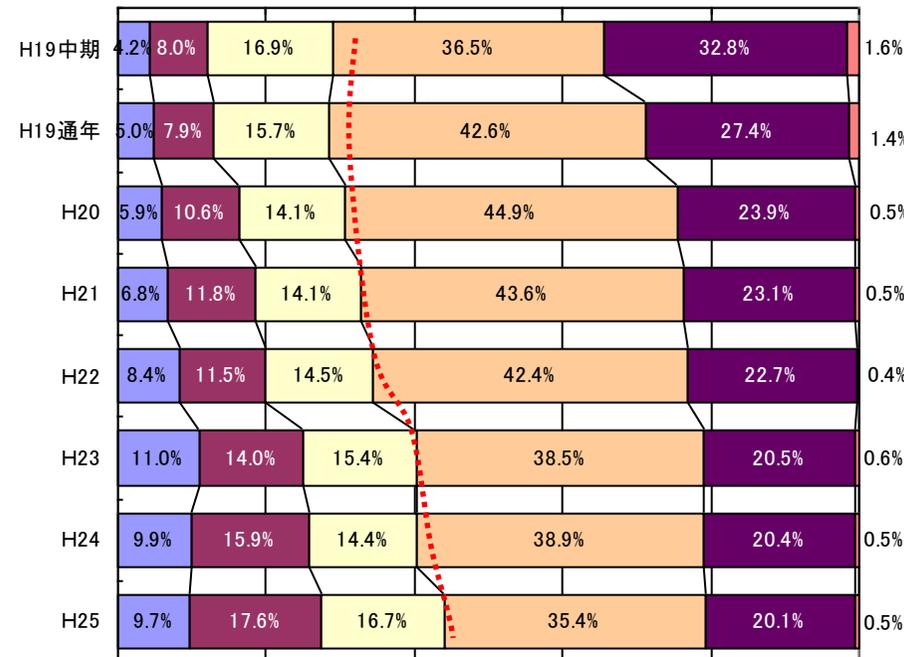
0% 20% 40% 60% 80% 100%



□ そう思う ■ まあそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない ■ 無回答

■ B. 授業に対する宿題、予習、復習時間

0% 20% 40% 60% 80% 100%

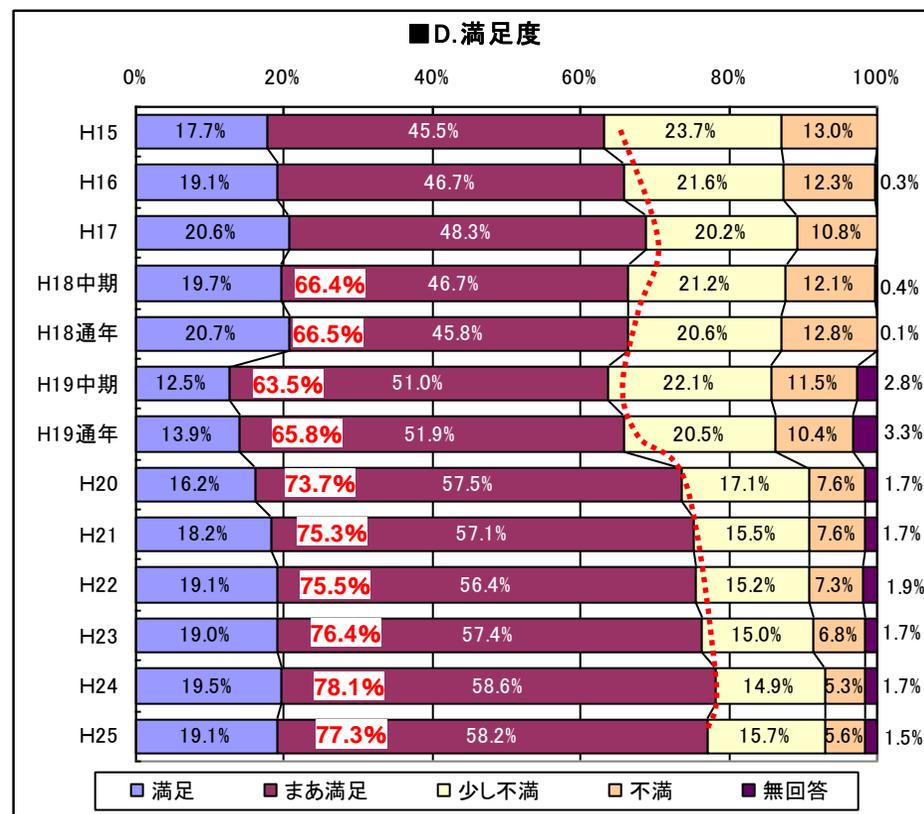
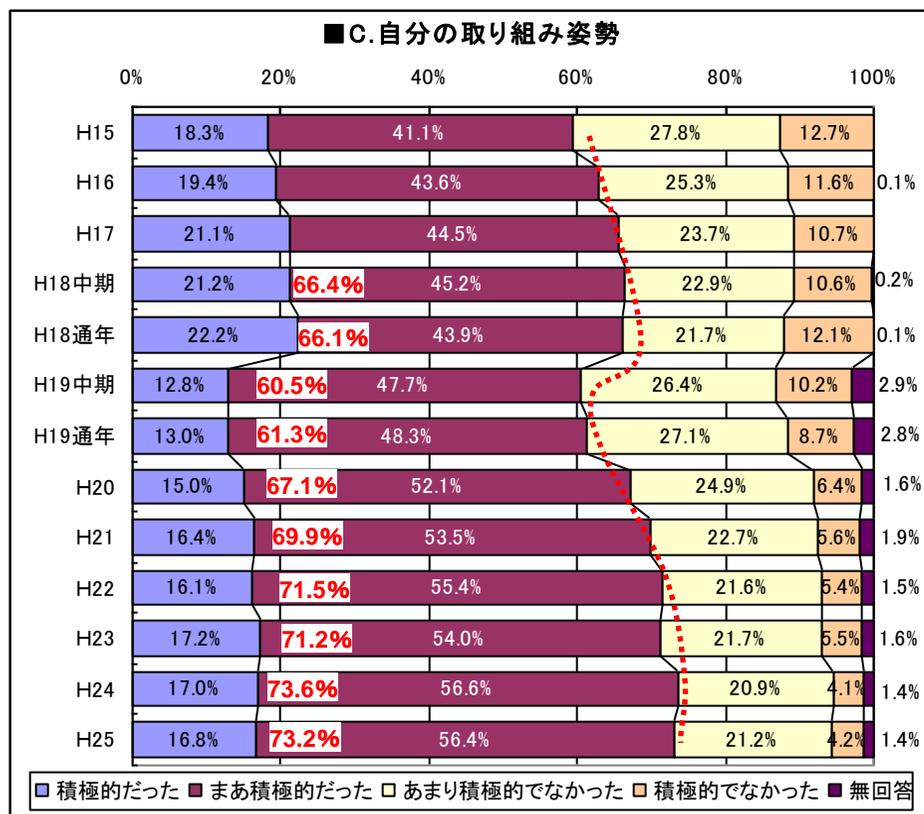


□ 60分以上 ■ 30～60分 □ 0～30分 □ 試験前だけ ■ しなかった ■ 無回答

H18中期から
無記名化

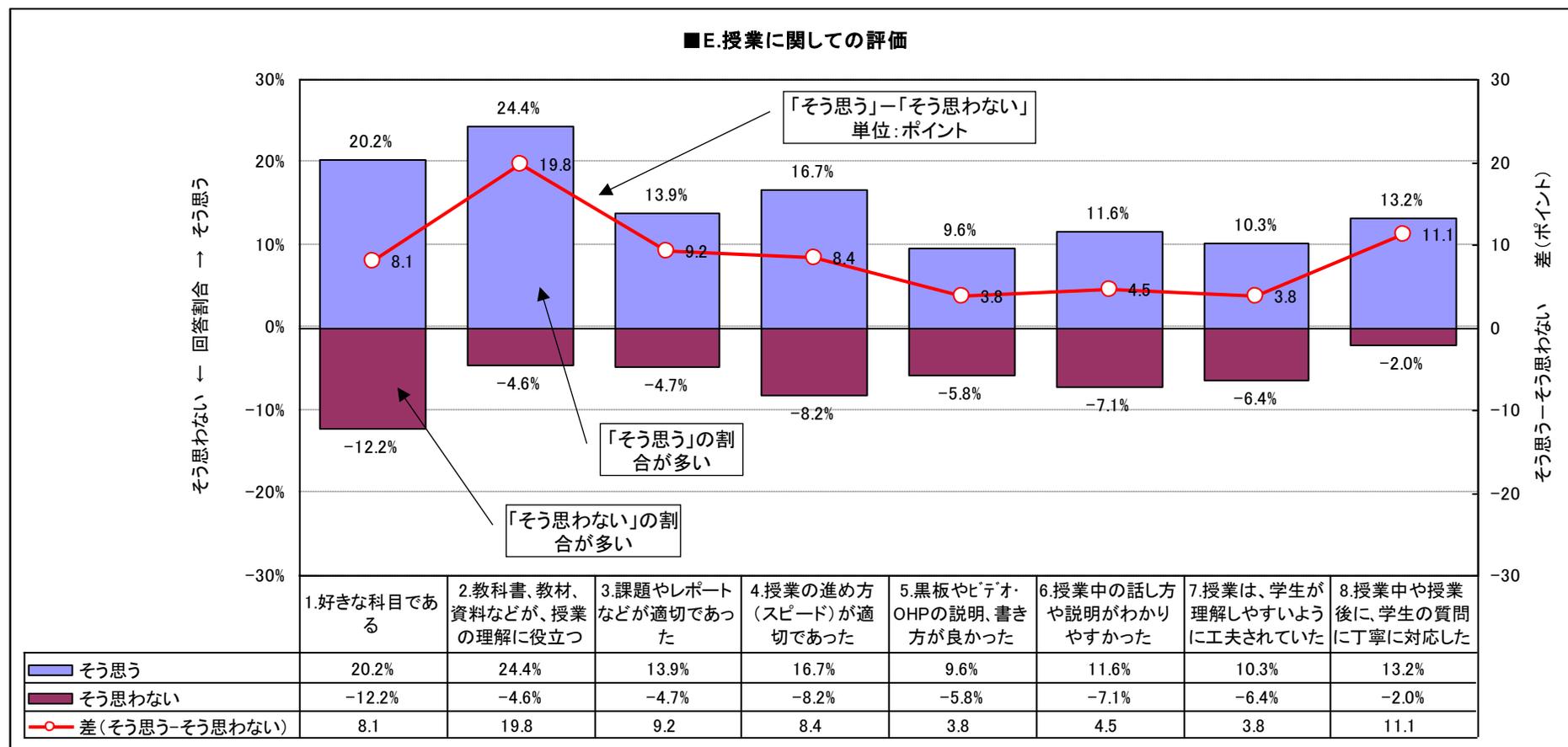
H19中期から
調査票変更

- 「C. 自分の取り組み姿勢(あなたは、この授業に対して積極的に取り組みましたか?)」では「積極的だった」が16.8%、「まあ積極的だった」が56.4%であり、合わせると73.2%が肯定的な意見であった。
- 前項の「A. 授業への興味」と同様に現在の形式となったH20以降の傾向を見ると、H22からH23にかけての0.3ポイントの低下が唯一の低下であったが、今回も前回を0.4ポイント下回る結果となっていた。
- 「D. 満足度(あなたはこの授業に満足していますか?)」に関しては、「満足」が19.1%、「まあ満足」が58.2%であり、合わせると77.3%が授業に満足していると答えていた。
- 「満足度」も前項の「興味」と同様にH20以降は肯定的な意見が増加する傾向が続いていたが、今回は前回を0.8ポイント下回っていた。ただし、「満足度」は低いわけではなく、前年に次いでこれまでで2番目の高さであった。



2) 授業に関する評価

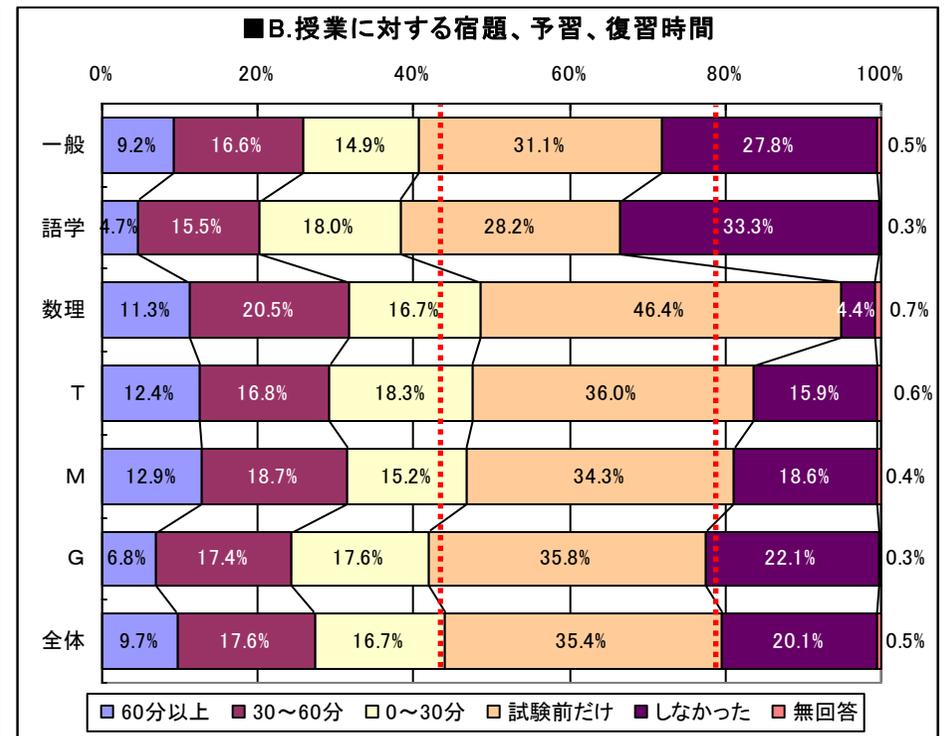
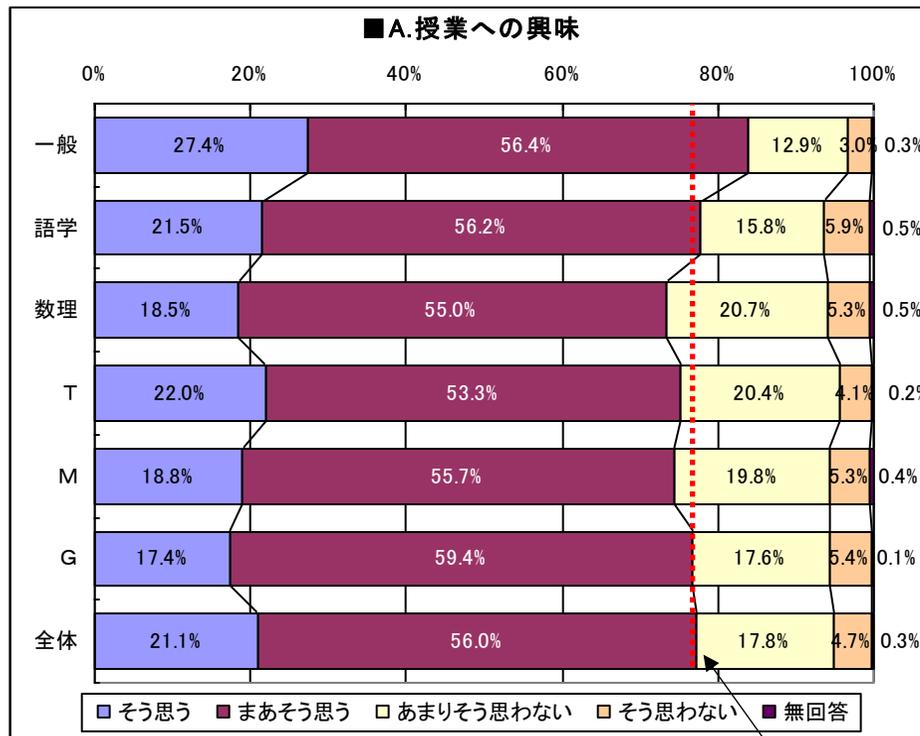
- 授業に関する評価は、「そう思う」の割合をプラス、「そう思わない」の割合をマイナスの棒グラフで表現し、「そう思う」から「そう思わない」を引いたものを折れ線グラフとして単位をポイントで表している。
- 「そう思う」が最も多かったのは「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」の24.4%であり、次いで「1.好きな科目である」(20.2%)、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」(16.7%)と続いていた。
- 「そう思わない」の割合は「1.好きな科目である」が-12.2%で最も多く、次いで「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」(-8.2%)、「6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった」(-7.1%)と続いていた。
- 「そう思う」と「そう思わない」の差を見ると、「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」が最も多く19.8ポイントのプラスとなっており、「8.授業中や授業後に、学生の質問に丁寧に対応した」「3.課題やレポートなどが適切であった」などの評価も高くなっていた。



部会別の比較

1) 部会別 授業への取り組み姿勢比較

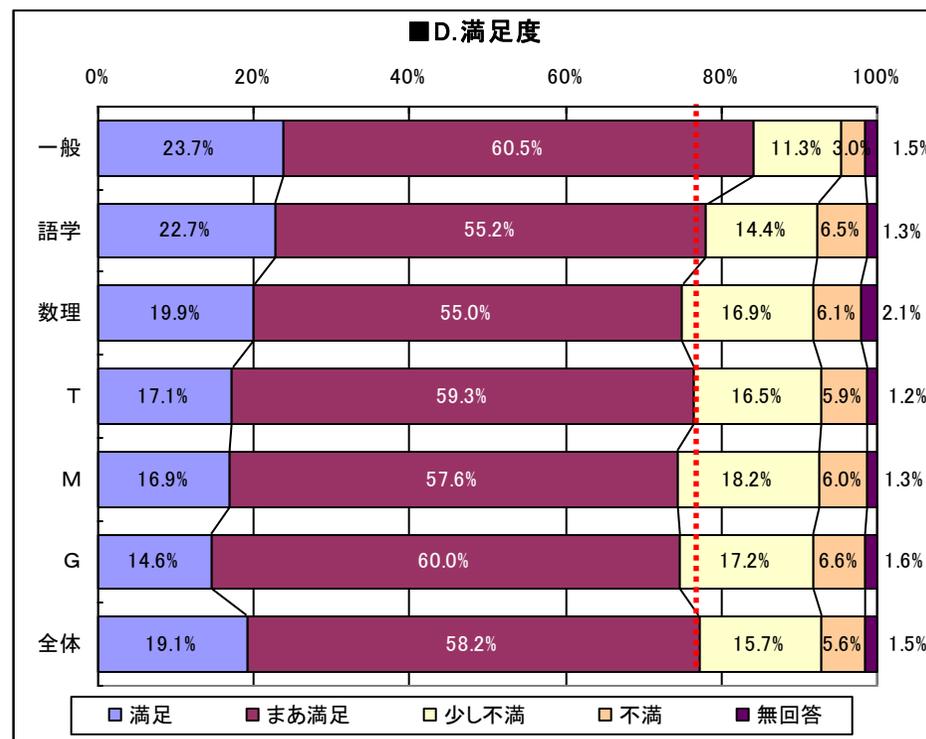
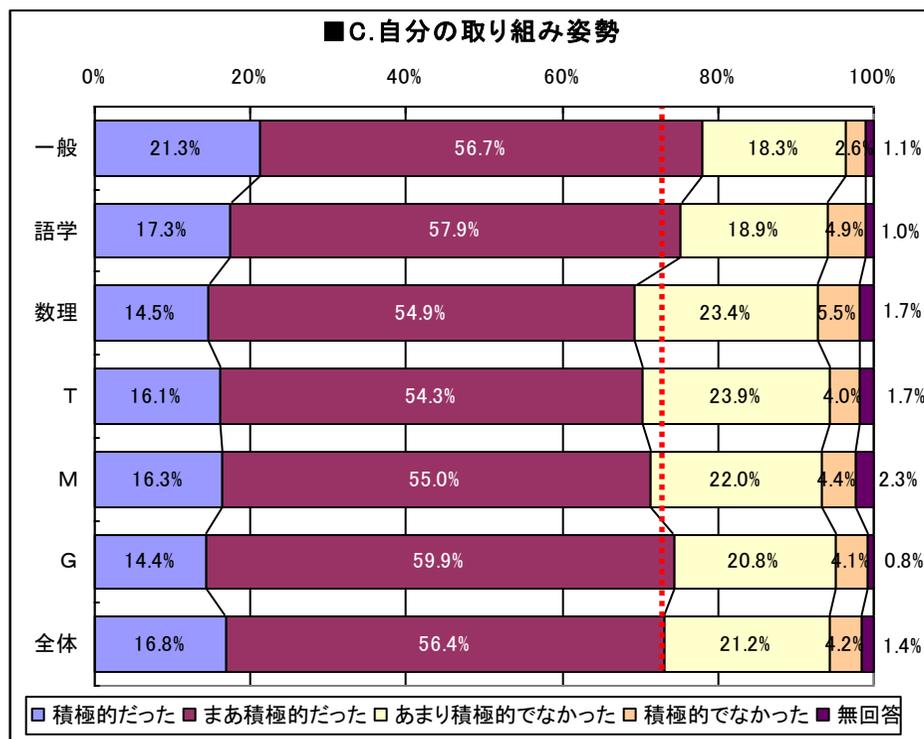
- 科目を6つの部会に分類し、その分類ごとに各質問項目の傾向を比較した。
- 「A. 授業への興味」を肯定的な意見の合計で比較すると、「一般」が最も高く、83.8%が興味ありと答えていた。次いで「語学」が77.7%、「G」が76.8%と続いており、最も低かったのは「数理」の73.5%であった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」を「60分以上」「30～60分」「0～30分」までの合計で比較すると、「数理」が48.5%と最も多く、「T」が47.5%、「M」が46.8%と続いていた。
- 「しなかった」が最も多かったのは「語学」の33.3%で、「一般」が27.8%で続いていた。また、「試験前だけ」は「数理」が46.4%で突出しており、「数理」の試験対策の様子がうかがえた。



「全体」の肯定的な意見と否定的な意見の境界

※部会の略称は以下の通り。T: 電気電子工学科、M: 機械工学科、G: グローバル情報工学科

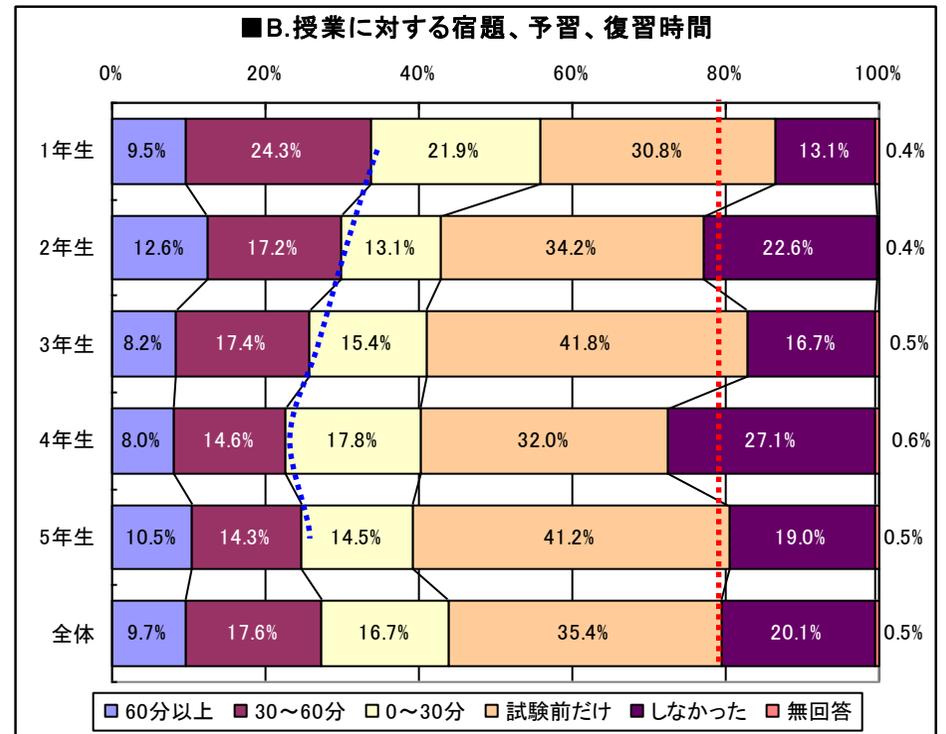
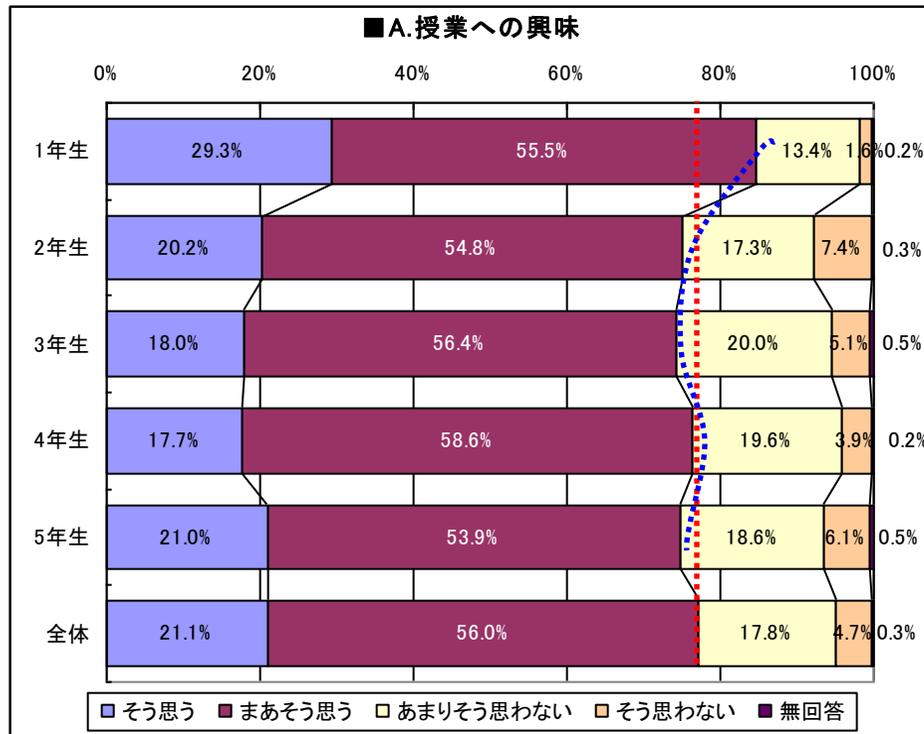
- 「C. 自分の取り組み姿勢」を肯定的な意見の合計で比較すると、最も高かったのは「一般」の78.0%であり、「語学」が75.2%、「G」が74.3%と続いていた。一方、最も低かったのは「数理」の69.4%であり、「一般」との差は8.6ポイントであった。
- 「D. 満足度」について肯定的な意見の合計を見ると、「一般」が84.2%で最も高く、「語学」が77.9%、「T」が76.4%と続いていた。
- 一方、満足度が低めだったのは「M」(74.5%)、「G」(74.6%)、「数理」(74.9%)の3部会であった。肯定的意見の合計では差はほとんど見られなかったが、「満足」だけで比べると「G」が14.6%で最も低く、「M」(16.9%)、「T」(17.1%)と差がついていた。



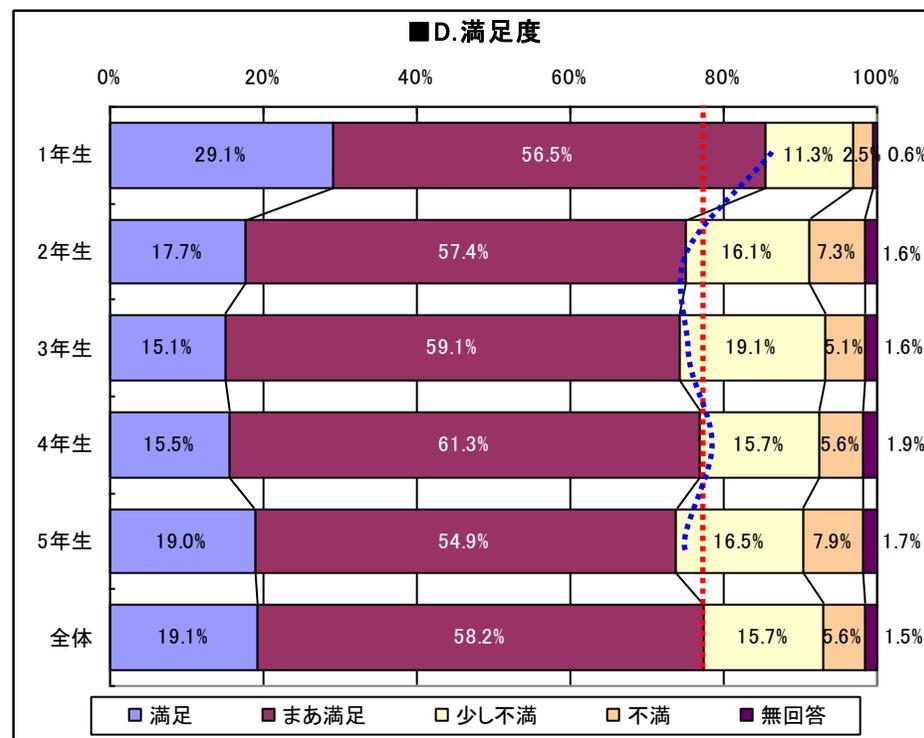
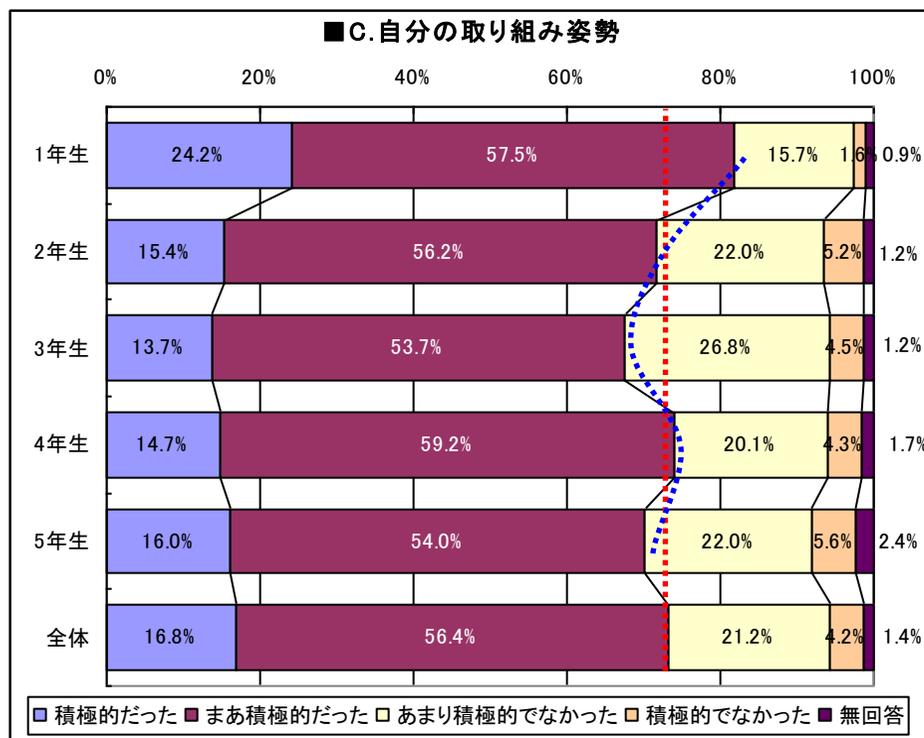
学年別の比較

1) 学年別 授業への取り組み姿勢比較

- 「A. 授業への興味」について学年別に肯定的な意見の合計を比較すると、「1年生」が84.8%と、目立って高かった。それ以外の学年には大きな差は見られず、「4年生」(76.3%)、「2年生」(75.0%)、「5年生」(74.9%)、「3年生」(74.4%)の順となっており、学年との相関関係は見られなかった。「そう思う」という回答だけを見ると「1年生」に次いで「5年生」「2年生」がやや高めで、差が見られた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」について「60分以上」と「30～60分」の合計で比較すると、「1年生」が33.8%と最も多く、「0～30分」までを加えると55.7%が自宅で学習していると答えていた。
- 「60分以上」と「30～60分」の合計で見ると「1年生」に次いで「2年生」(29.8%)、「3年生」(25.6%)、「5年生」(24.8%)、「4年生」(22.6%)と続いていたが、「0～30分」までを加えた値で比較すると高学年ほど勉強時間が減る傾向があり、学年との相関関係が見られた。
- 一方、「しなかった」だけを見ると「4年生」で27.1%と非常に多く、「1年生」の13.1%との間に14.0ポイントの差が見られた。



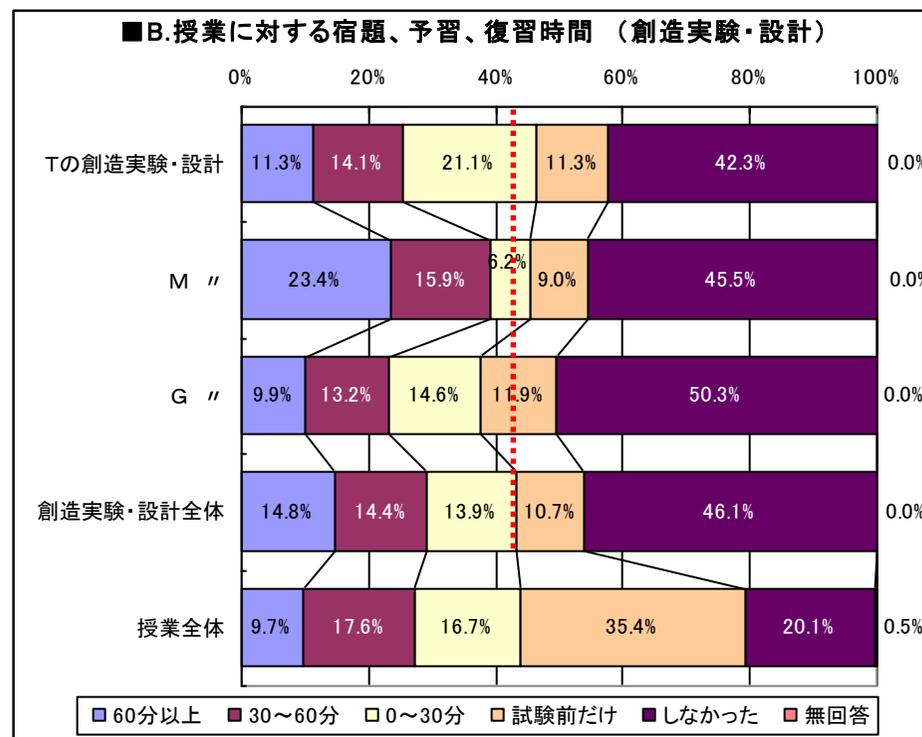
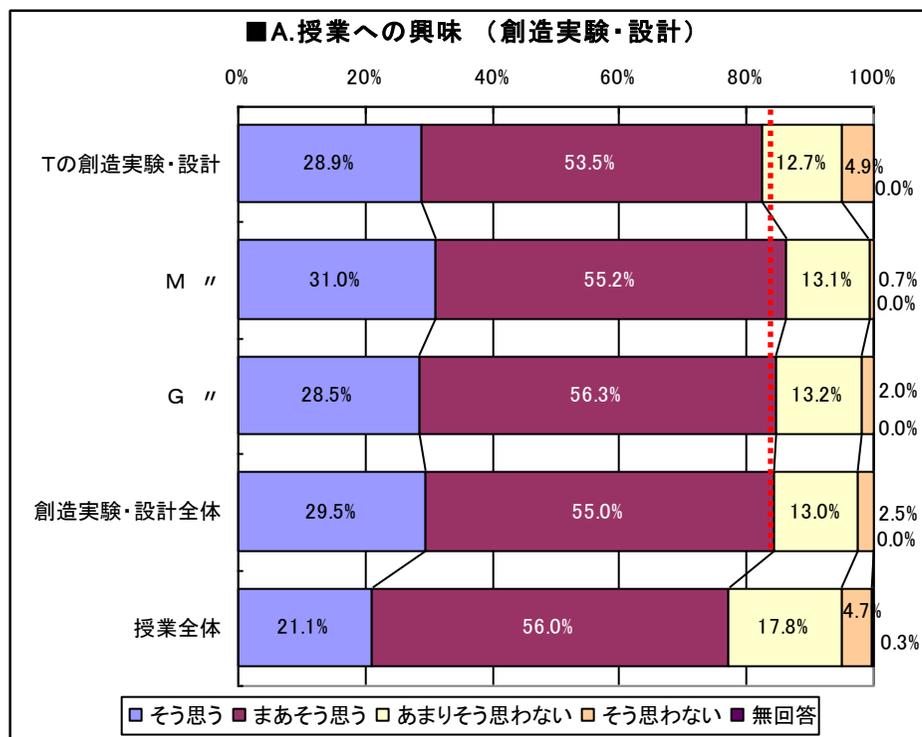
- 「C. 自分の取り組み姿勢」について学年別に肯定的な意見の合計で比較すると、「1年生」が81.7%と非常に積極的である点が目立っていた。次いで、「4年生」が73.9%、「2年生」が71.6%と続いており、最も低かったのは「3年生」の67.4%であった。
- 「積極性」と学年との相関関係は見られなかったが、「1年生」から「3年生」にかけて低下する傾向は確認できた。
- 「D. 満足度」について肯定的な意見の合計で比較すると、「1年生」が85.6%と非常に高かった。「1年生」は「満足」という回答だけを見ても29.1%であり、満足度の高さがうかがえた。そして、その他の学年の差はそれほど大きくなく、「4年生」が76.8%、「2年生」が75.1%、「3年生」が74.2%。「5年生」が73.9%と続いており、特に低い学年も見られなかった。
- 「積極性」「満足度」ともに学年との相関関係は見られなかったが、「1年生」の高さと、それに「4年生」が次いでいるなど、全体の傾向は似ていた。



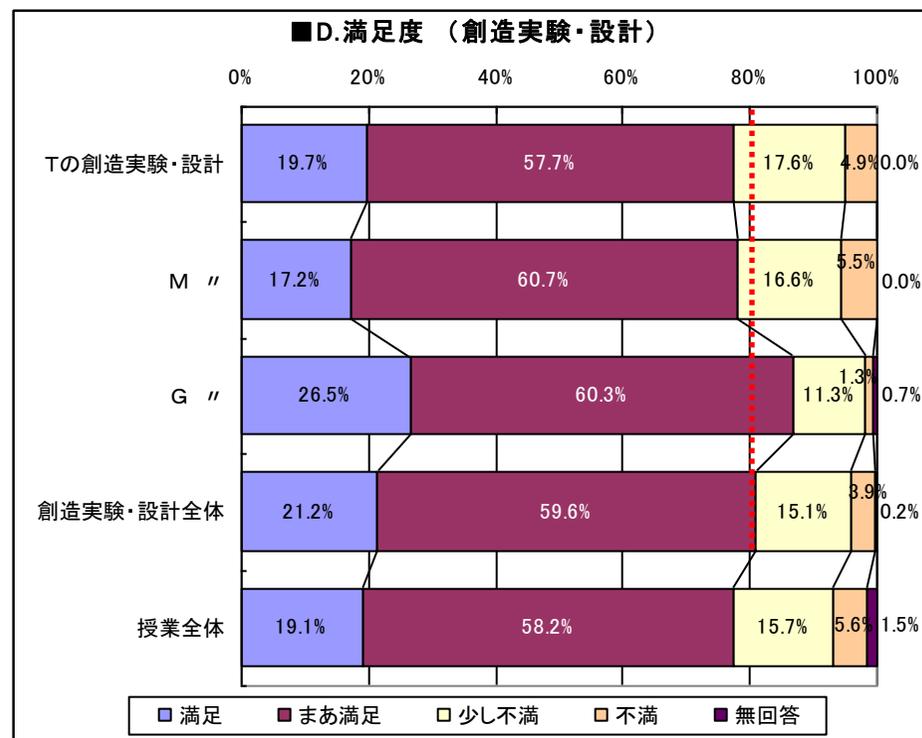
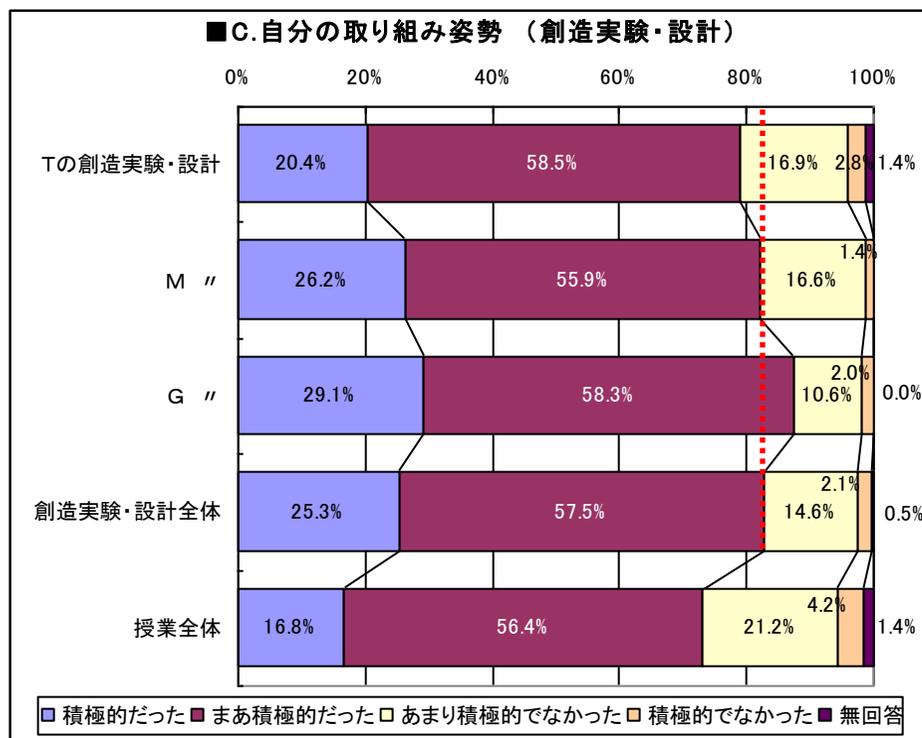
創造実験・設計に関して

1) 創造実験・設計の授業への取り組み姿勢比較

- 「創造実験・設計」の科目だけを抽出し、部会毎の比較を行った。比較対象として「授業全体」の結果も表示している。
- 「A. 授業への興味」に関して肯定的な意見の合計で比較すると、「創造実験・設計全体」では84.5%が肯定的な意見で、「授業全体」の77.1%と比べると7.4ポイントの差があり、「創造実験・設計」に対する興味がうかがえた。
- 部会別に比較したところ、大きな差ではないが「M」で86.2%とやや多く、「G」で84.8%、「T」で82.4%となっていた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」では、「試験前だけ」と「しなかった」という回答において「授業全体」と「創造実験・設計全体」の差が非常に大きいことが分かる。「しなかった」という回答は、「授業全体」では20.1%であったが「創造実験・設計全体」では46.1%で、その差は26.0ポイントもあり、「創造実験・設計全体」では試験前でも勉強をしていない学生が多いことが分かった。
- 部会毎の比較では「M」で「60分以上」が23.4%と多く、しっかり勉強をしている様子がうかがえた。「T」と「G」は似た傾向になっていた。



- 「C. 自分の取り組み姿勢」について肯定的な意見の合計で比較すると、「授業全体」では73.2%であったが「創造実験・設計全体」では82.8%であり、「創造実験・設計全体」に対する積極さが感じられた。
- 部会別に見ると、「積極的だった」という回答は「G」が29.1%、「M」が26.2%、「T」が20.4%と差が見られ、「まあ積極的だった」までの合計でも「G」が87.4%と高く、「T」の78.9%と比べると8.5ポイントの差がついていた。
- 「D. 満足度」について肯定的な意見の合計で比べると、「授業全体」では77.3%であり、「創造実験・設計全体」の80.8%との間にはそれほど大きな差はなく、「創造実験・設計全体」の満足度は全体平均に近かったと言える。
- 部会別に見ると、「G」では肯定的な意見が86.8%と目立って高かった。「G」では特に、「満足」という回答が26.5%であり、強く満足している割合も高い。また、「T」と「M」の差はそれほど大きくはなく、「授業全体」とも似た傾向であった。



部会別、評価の高かった科目比較

1)一般

- 「興味」「積極性」「満足度」を加重平均で点数化し、H24とH25のスコアを部会別に比較した。
- 一般の科目の中でH25に評価が高かった科目は「文化・芸術・思想Ⅲ」であり、「興味」「積極性」「満足度」ともに最も高かった。そして、「文化・芸術・思想Ⅰ」も「積極性」が5位、「興味」「満足度」が10位になっていた。「文化・芸術・思想」に関する科目は、H24には「興味」と「積極性」において9位に見られただけであったが、今回は評価の高さが目立っていた。
- 次いで「国語Ⅰ」が3つの指標ともに2位となっていた。また、「国語Ⅱ」の評価も「積極性」以外ではH24に引き続き、低くはなかった。
- 「保健体育」の各科目は全体的に高い評価となっていた。この傾向はH24と同じであり、常に高い評価となっているようであった。
- H24には「倫理」が3つの指標ともに1位となっていたが、H25には開講されておらず、「日本語スキルズ」は最上位ではないが、前回と同様に高めの評価となっていた。

■H24で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	倫理	8.85	倫理	7.31	倫理	9.23
2	哲学	8.75	保健体育ⅣA	6.67	保健体育ⅣB	8.13
3	保健体育ⅣA	7.50	保健体育Ⅲ	6.26	日本語スキルズ	7.27
4	日本語スキルズ	7.44	日本語スキルズ	5.92	デザイン概論	6.88
5	保健体育Ⅲ	6.88	保健体育Ⅰ	5.55	保健体育ⅣA	6.81
6	デザイン概論	6.88	デザイン概論	5.00	哲学	6.25
7	保健体育Ⅰ	6.57	保健体育Ⅱ	4.96	保健体育Ⅰ	6.18
8	国語Ⅱ	6.01	国語Ⅱ	4.92	保健体育Ⅲ	5.99
9	文化・芸術・思想ⅡB	5.63	文化・芸術・思想ⅡA	4.50	心理学A	5.93
10	心理学A	5.56	心理学A	4.42	国語Ⅱ	5.70

■H25で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	文化・芸術・思想Ⅲ	8.70	文化・芸術・思想Ⅲ	6.96	文化・芸術・思想Ⅲ	8.26
2	国語Ⅰ	7.26	国語Ⅰ	6.28	国語Ⅰ	7.21
3	保健体育ⅣA	7.11	保健体育ⅣA	6.18	日本語スキルズ	6.16
4	日本語スキルズ	6.60	保健体育Ⅲ	5.97	保健体育Ⅰ	5.93
5	保健体育Ⅲ	6.57	文化・芸術・思想Ⅰ	5.79	保健体育Ⅲ	5.75
6	保健体育ⅣB	5.38	保健体育ⅣB	5.58	歴史Ⅰ	5.75
7	保健体育Ⅱ	5.38	日本語スキルズ	5.15	保健体育ⅣA	5.68
8	保健体育Ⅰ	5.14	歴史Ⅰ	4.58	歴史Ⅱ	5.54
9	国語Ⅱ	5.12	保健体育Ⅱ	4.45	国語Ⅱ	5.47
10	文化・芸術・思想Ⅰ	5.00	文化・芸術・思想ⅡA	4.44	文化・芸術・思想Ⅰ	4.63

2) 語学

- H25の語学では、「興味」「積極性」「満足度」の3指標における上位科目がほぼ一致しており、「総合英語 I a」「上級英語 I」「世界事情 I」「世界事情 II」「上級英語 II」「英語スキルズ III」の6科目がおおむね1位～5位を占める結果となっていた。
- 「興味」では「総合英語 I a」、「積極性」では「世界事情 II」、「満足度」では「上級英語 I」が1位であり、すべて異なっていたが、全体的に見ると「上級英語 I」の評価が高いと言える。
- H24には「上級英語 II」「世界事情 II」「英語スキルズ I」の3科目で完全に3指標の上位3位を占めていた。「上級英語 II」と「世界事情 II」の2科目は今回も上位に入っており、継続的に高い評価となっている。また、「英語スキルズ I」も決して低い評価ではなかった。一方、今回評価が高かった「上級英語 I」の評価は、H24にはそれほど高くなく、特徴的であった。

■H24で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	上級英語 II	5.95	世界事情 II	5.63	世界事情 II	6.88
2	世界事情 II	5.63	上級英語 II	4.76	上級英語 II	5.95
3	英語スキルズ I	5.54	英語スキルズ I	4.58	英語スキルズ I	5.31
4	総合英語 I a	5.35	英語スキルズ III	4.29	英語スキルズ III	5.00
5	英語スキルズ III	4.73	英語表現技法	4.29	英語表現技法	5.00
6	世界事情 I	4.66	世界事情 I	3.10	総合英語 I a	4.77
7	英語表現技法	4.29	総合英語 I a	2.83	世界事情 I	3.21
8	総合英語 I b	3.15	総合英語 I b	2.46	総合英語 II	2.95
9	英語スキルズ II	2.98	上級英語 I	2.40	総合英語 I b	2.69
10	総合英語 II / 上級英語 I	2.40	総合英語 IV	2.37	総合英語 IV	2.00

■H25で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	総合英語 I a	6.03	世界事情 II	5.91	上級英語 I	6.64
2	上級英語 I	5.63	上級英語 I	5.55	上級英語 II	6.43
3	世界事情 II	5.45	世界事情 I	5.25	総合英語 I a	6.40
4	上級英語 II	5.24	総合英語 I a	4.95	世界事情 I	5.50
5	英語スキルズ III	5.19	英語スキルズ III	4.58	英語スキルズ III	5.19
6	世界事情 I	5.00	上級英語 II	4.52	総合英語 IV	5.00
7	英語スキルズ I	4.81	英語スキルズ I	4.47	英語スキルズ I	4.81
8	総合英語 I b	3.50	総合英語 IV	3.13	世界事情 II	4.55
9	総合英語 IV	2.81	総合英語 I b	2.99	総合英語 I b	3.55
10	英語資格技術	2.62	英語資格技術	2.38	英語表現技法	2.63

3) 数理

- 数理では3つの指標ともに上位の5位までが全く同じ科目であり、「応用数学Ⅱ」「基礎数学Ⅱ」「微分積分Ⅰ」「物理・化学Ⅱ」「物理・化学Ⅰ」の順となっていた。特に「応用数学Ⅱ」のスコアは3つの指標ともに他の科目と比べて高めであり、満足度の高さがうかがえた。
- H24には「興味」「積極性」「満足度」の指標ごとにトップの科目は異なっており、「微分積分Ⅱ」「数学特論」「微分積分Ⅰ」「物理・化学Ⅰ」「応用数学」が上位の5科目をほぼ占めていた。今回と比較すると「応用数学」「微分積分Ⅰ」「物理・化学Ⅰ」は上位の科目として共通であったが、前回全体的に上位で「満足度」ではトップだった「微分積分Ⅱ」は大きく順位を下げていた。

■H24で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	応用数学	7.50	微分積分Ⅰ	5.32	微分積分Ⅱ	6.61
2	数学特論	6.75	応用数学	5.00	数学特論	6.50
3	微分積分Ⅰ	6.10	微分積分Ⅱ	4.89	微分積分Ⅰ	6.42
4	微分積分Ⅱ	5.48	物理・化学Ⅰ	4.49	物理・化学Ⅰ	5.75
5	物理・化学Ⅰ	5.27	数学特論	3.75	基礎数学Ⅱ	5.12
6	物理・化学Ⅱ	4.84	基礎数学Ⅱ	3.51	応用数学	5.00
7	基礎数学Ⅱ	4.72	物理・化学Ⅱ	3.35	応用物理Ⅰ	4.86
8	応用物理Ⅰ	4.17	応用物理Ⅰ	2.65	物理・化学Ⅱ	4.65
9	物理・化学Ⅲ	2.74	物理・化学Ⅲ	2.53	応用物理Ⅱ	3.40
10	基礎数学Ⅰ	1.93	基礎数学Ⅰ	1.77	物理・化学Ⅲ	3.37

■H25で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	応用数学Ⅱ	6.83	応用数学Ⅱ	6.63	応用数学Ⅱ	7.31
2	基礎数学Ⅱ	5.36	基礎数学Ⅱ	4.86	基礎数学Ⅱ	6.28
3	微分積分Ⅰ	4.83	微分積分Ⅰ	4.66	微分積分Ⅰ	5.92
4	物理・化学Ⅱ	4.80	物理・化学Ⅱ	3.89	物理・化学Ⅱ	5.50
5	物理・化学Ⅰ	4.54	物理・化学Ⅰ	3.83	物理・化学Ⅰ	4.95
6	物理・化学Ⅲ	3.77	数理統計	3.33	応用数学Ⅰ	4.18
7	数理統計	3.68	物理・化学Ⅲ	2.77	数理統計	4.17
8	応用数学Ⅰ	3.24	応用数学Ⅰ	2.76	物理・化学Ⅲ	3.87
9	微分積分Ⅱ	2.08	微分積分Ⅱ	1.95	線形代数Ⅰ	2.21
10	線形代数Ⅰ	1.75	線形代数Ⅰ	0.70	微分積分Ⅱ	2.05

4)T

- 「電気電子工学科(T)」では「興味」「積極性」「満足度」の3指標で「メディア情報」「コンピュータⅠ」「創造実験Ⅰ」「インターンシップ」の4科目が高めで、上位を占めていた。特に「メディア情報」は「興味」と「満足度」で1位、「積極性」で2位となっており、評価が高い科目と言える。この4科目以外では、「送配電工学」が「満足度」で2位と高かったが、「興味」で6位、「積極性」で8位と、それほど高い評価ではないケースも見られた。
- 「インターンシップ」の評価は前年でも高めで、今回も同じく上位に入っていたが、その他の科目は入れ替わっており、評価に変化があったと言える。

■H24で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	7.71	電気回路Ⅱ(OP)	8.33	電気回路Ⅱ(OP)	8.33
2	電気磁気学Ⅱ(OP)	7.50	インターンシップ	7.61	インターンシップ	7.71
3	電気回路Ⅱ(OP)	6.67	電気磁気学Ⅱ(OP)	6.25	ソフトウェア工学	7.50
4	ソフトウェア工学	6.50	送配電工学	5.56	電気磁気学Ⅱ(OP)	7.50
5	コンピュータグラフィックス	6.20	卒業研究	5.40	数値計算	6.67
6	コンピュータⅡ	5.43	システム制御	5.38	送配電工学	6.67
7	システム制御	5.38	コンピュータⅡ	5.33	卒業研究	5.42
8	システム設計Ⅰ	5.26	ソフトウェア工学	5.00	システム制御	5.38
9	情報工学Ⅰ	5.26	マルチメディア	5.00	電気法規と施設管理	5.31
10	システム設計Ⅱ	5.25	創造実験Ⅲ	4.34	情報工学Ⅰ	5.26

■H25で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	メディア情報	7.94	インターンシップ	7.78	メディア情報	6.76
2	コンピュータⅠ	6.77	メディア情報	6.47	送配電工学	6.75
3	創造実験Ⅰ	6.45	創造実験Ⅰ	5.81	コンピュータⅠ	6.45
4	インターンシップ	6.22	コンピュータⅠ	5.65	創造実験Ⅰ	5.81
5	電気基礎	6.13	情報工学Ⅰ	5.34	インターンシップ	5.56
6	送配電工学	6.00	卒業研究	5.22	システム工学	5.53
7	情報工学Ⅰ	5.86	電気基礎	5.00	電気基礎	5.48
8	卒業研究	5.42	送配電工学	4.50	情報伝送工学	5.43
9	回路シミュレーション	5.36	設計製図	4.34	設計製図	5.42
10	電気電子工学演習	5.24	コンピュータⅡ	4.29	回路シミュレーション	5.36

5)M

- 「機械工学科(M)」では、「創造設計Ⅳ」の評価が3指標で上位2位までに入っている他は、他の部会に比べて評価が分かれていた。「機械設計演習Ⅱ」は「興味」で2位、「満足度」ではトップであったが、「積極性」では9位だった。また、「卒業研究」は「興味」と「積極性」では3位であったが、「満足度」では上位の10位までには入っていなかった。
- 上記以外では「機械設計演習Ⅰ」と「機械製図Ⅰ」は満足度が高めであったが、「興味」はそれほど高くなく、「積極性」は評価が分かれる結果となっていた。
- 今回上位を占めていた「創造設計Ⅳ」は、H24には「興味」と「積極性」でやや高めであったが「満足度」では10位であり、「卒業研究」も「積極性」はやや高めであったが、「満足度」では10位に入っていなかった。また、H24には「機械設計演習Ⅰ」が「興味」で4位だったが、その他の指標では10位に入っておらず、「機械設計演習Ⅱ」は3指標ともに10位までに入っていなかった。

■H24で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	創造設計Ⅳ	7.79	機械工学演習Ⅱ	7.50	機械工学演習Ⅱ	8.33
2	機械工学演習Ⅱ	7.50	インターンシップ	6.29	設計システム工学	5.88
3	インターンシップ	6.00	創造設計Ⅳ	5.88	エネルギー工学	5.76
4	機械設計演習Ⅰ	5.88	創造設計Ⅲ	5.74	生産システム工学	5.76
5	エネルギー工学	5.76	創造設計Ⅰ	5.37	ビークル工学	5.60
6	設計システム工学	5.57	卒業研究	5.29	先端材料工学	5.15
7	創造設計Ⅲ	5.54	設計システム工学	5.29	インターンシップ	5.00
8	機械設計(OP)	5.50	コンピュータ工学	5.00	エレクトロニクスⅡ	5.00
9	生産システム工学	5.45	機械工学実験	5.00	計測工学	4.85
10	機械工学実験Ⅰ ／卒業研究	5.44	機械設計(OP)／材 料力学Ⅰ(OP)	5.00	創造設計Ⅳ／機 械工学実験Ⅰ	4.85

■H25で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	創造設計Ⅳ	6.83	創造設計Ⅳ	7.00	機械設計演習Ⅱ	6.09
2	機械設計演習Ⅱ	6.72	機械工学演習Ⅱ	6.96	創造設計Ⅳ	5.83
3	卒業研究	5.50	卒業研究	6.17	情報処理Ⅰ	5.53
4	機械工学演習Ⅱ	5.42	インターンシップ	5.86	機械設計演習Ⅰ	5.33
5	情報処理Ⅰ	5.38	機械製図Ⅰ	4.87	機械製図Ⅰ	5.26
6	創造設計Ⅲ	5.25	機械工学特論Ⅰ	4.81	機械工学特論Ⅰ	4.81
7	材料力学Ⅰ	5.12	創造設計Ⅲ	4.38	機械工学演習Ⅱ	4.79
8	機械工学演習Ⅲ	5.00	情報処理Ⅰ	4.36	計測制御Ⅰ	4.67
9	機械製図Ⅰ	5.00	機械設計演習Ⅱ	4.35	創造設計Ⅰ	4.38
10	機械設計演習Ⅰ	4.83	材料力学Ⅰ	4.27	機械加工Ⅰ	4.25

6)G

- 「グローバル情報工学科(G)」では、上位の2科目が3指標ともに共通であった。3指標ともに1位だったのは「英語コンピュータリテラシー」で、次いで2位は「創造実験Ⅰ」であった。
- 3位以下を見ると、「日本文化」は「興味」と「満足度」、「情報処理Ⅰb」は「興味」と「積極性」、「英語総合技能Ⅰ」は「積極性」と「満足度」で上位に入っていた。また、「創造実験Ⅲ」も3指標で10位に入っていたが、特に「満足度」が4位と高かった。
- 前回のH24には「興味」と「積極性」において「日本文化」がトップ、「英語コンピュータリテラシー」が2位だった。今回、「英語コンピュータリテラシー」は3指標でトップとなり順位を上げているが、「日本文化」は「興味」で3位、「満足度」で5位、「積極性」ではランク外となった。
- 今回3指標で2位となった「創造実験Ⅰ」は、H24には「積極性」で10位に入っているだけだった。そして同系統の「創造実験Ⅲ」は、今回「満足度」で4位、「興味」と「積極性」でも10位に入っているが、H24には「積極性」で6位に入っているだけであった。このようにGの科目は、今回入れ替わりが多かった。

■H24で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	日本文化	7.69	日本文化	6.15	情報理論	7.50
2	英語コンピュータリテラシー	7.50	英語コンピュータリテラシー	6.09	数値計算	7.50
3	情報理論	7.50	インターンシップ	5.26	情報数学Ⅰ	6.75
4	数値計算	7.50	エンジニアリングマネジメントa	5.26	英語コンピュータリテラシー	6.28
5	情報数学Ⅰ	6.50	情報数学Ⅰ	5.25	英語討議技法	5.83
6	マルチメディア	6.20	創造実験Ⅲ	5.19	エンジニアリングマネジメントa	5.79
7	英語作文技法	6.15	卒業研究	5.19	マルチメディア	5.65
8	英語討議技法	6.15	ビジネス英語	5.00	日本文化	5.58
9	システム開発演習Ⅰ	6.00	数値計算	5.00	情報処理Ⅱa	5.53
10	ビジネス英語	5.60	創造実験Ⅰ	5.00	英語作文技法	5.38

■H25で評価の高かった上位10科目

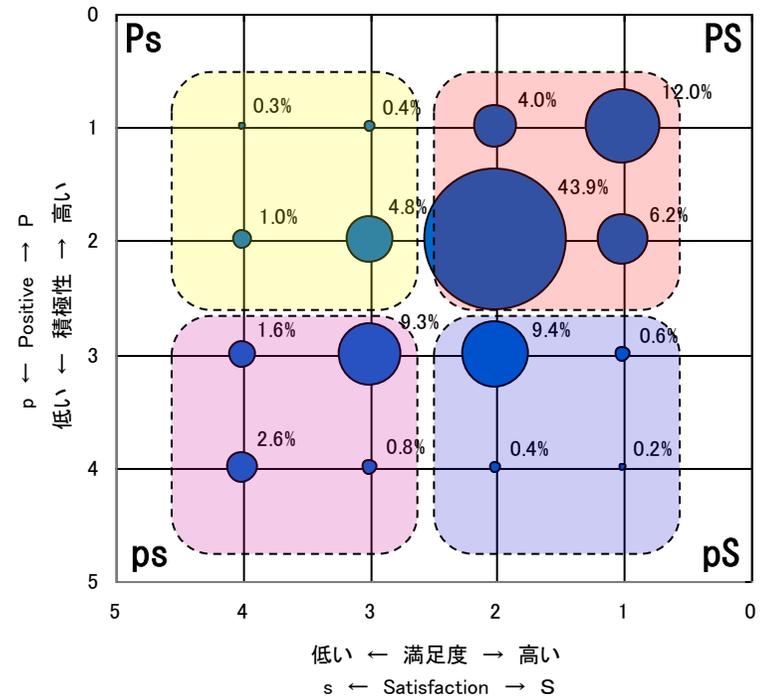
	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	英語コンピュータリテラシー	6.95	英語コンピュータリテラシー	6.95	英語コンピュータリテラシー	6.83
2	創造実験Ⅰ	6.38	創造実験Ⅰ	6.88	創造実験Ⅰ	6.13
3	日本文化	6.21	英語討議技法	5.00	英語総合技能Ⅰ	5.74
4	情報処理Ⅰb	5.61	情報処理Ⅰb	5.00	創造実験Ⅲ	5.71
5	コンピュータ演習Ⅲ	5.61	英語総合技能Ⅰ	4.82	日本文化	5.61
6	英語討議技法	5.42	インターンシップ	4.69	計算機システムⅠ	5.32
7	計算機システムⅠ	5.31	創造実験Ⅲ	4.64	創造実験Ⅱ	4.80
8	情報処理Ⅲ	5.19	創造実験Ⅱ	4.41	コンピュータ演習Ⅲ	4.70
9	創造実験Ⅲ	5.00	コンピュータ演習Ⅲ	4.39	エンジニアリングマネジメントa	4.69
10	インターンシップ	4.85	エンジニアリングマネジメントa	4.38	情報処理Ⅰb	4.63

達成度に関して

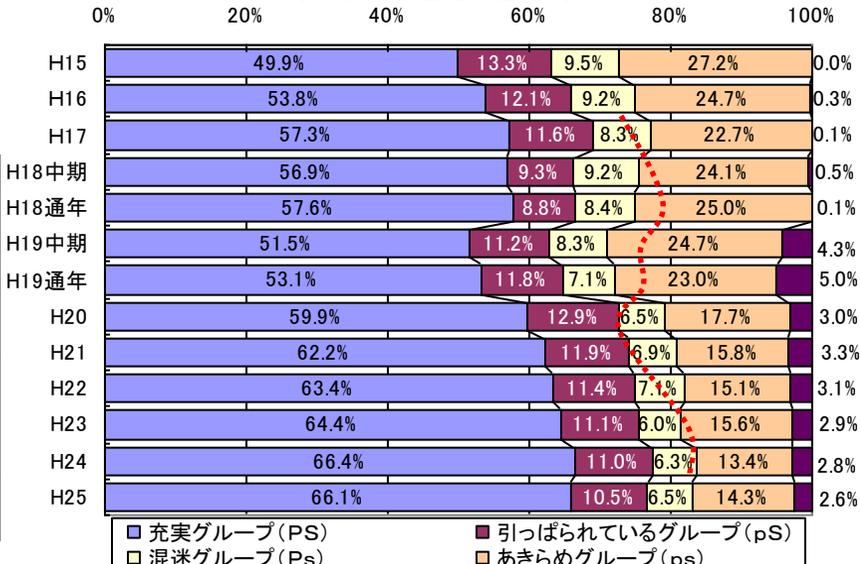
1) 全体傾向

- 「積極性」と「満足度」で見たPS指標で最も多かったのは、積極性も満足度も高い「PS・充実グループ」の66.1%であった。
- 「PS・充実グループ」の中でも2指標とも最も高い「満足している」かつ「積極的だった」という層は12.0%、次いで、「まあ満足している」かつ「まあ積極的だった」層が43.9%となっていた。
- 上記に次いで多かったのは、「積極性も満足度も低い」という「ps・あきらめグループ」の14.3%であり、「pS・引っぱられているグループ」が10.5%、「Ps・混迷グループ」が6.5%が続いていた。
- 経年変化を見ると、「PS・充実グループ」は前回より0.3ポイント減少していたが、ほとんど変化はないと言えるものであり、高いレベルを維持していた。
- その他のグループでもわずかな変化ではあるが、「ps・あきらめグループ」が0.9ポイントの増加、「Ps・混迷グループ」が0.2ポイントの増加、「pS・引っぱられているグループ」が0.5ポイントの減少となっていた。

■ 満足度と積極性の関係



■ 満足度と積極性 経年変化



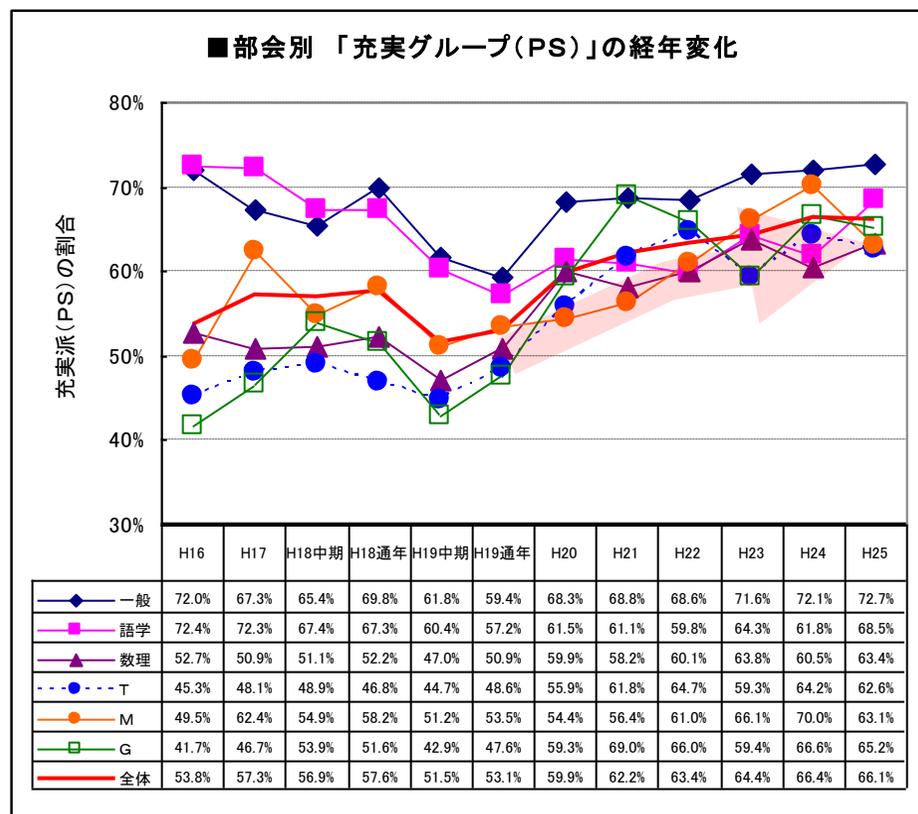
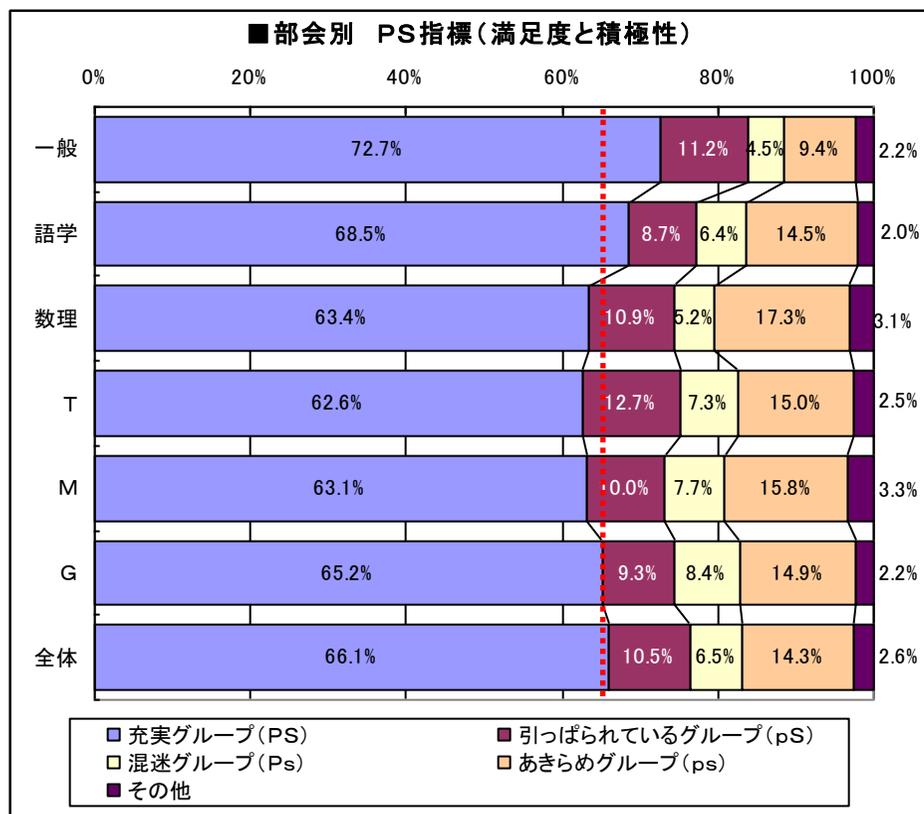
■ PS指標の内訳

記号	指標	想像される特性	領域の合計
PS (充実グループ)	●積極性も満足度も高い	● 授業に積極的に取り組み、結果として満足度も高い。 ● 最も良い状態にあり、達成度も高いと想像できる。	66.1%
pS (引っぱられているグループ)	●積極性は低い ●満足度は高い	●それほど頑張らなかつたが、満足している。周囲、教員に引っぱられてうまくいっている。 ●求めるレベルが低いことも考えられるが、授業が期待以上というケースも考えられる。	10.5%
Ps (混迷グループ)	●積極性は高い ●満足度は低い	●目標が高すぎたことも考えられるが、授業内容が期待はずれ。 ●最も注意すべき状態であり、この層の満足度を上げることが最優先。	6.5%
ps (あきらめグループ)	●積極性も満足度も低い	● 授業に期待がなく積極性が低く満足度も低い。 ● まず、授業に取り組む態度を見直させることが必要。	14.3%

■ 充実グループ (PS) ■ 引っぱられているグループ (pS)
□ 混迷グループ (Ps) □ あきらめグループ (ps)

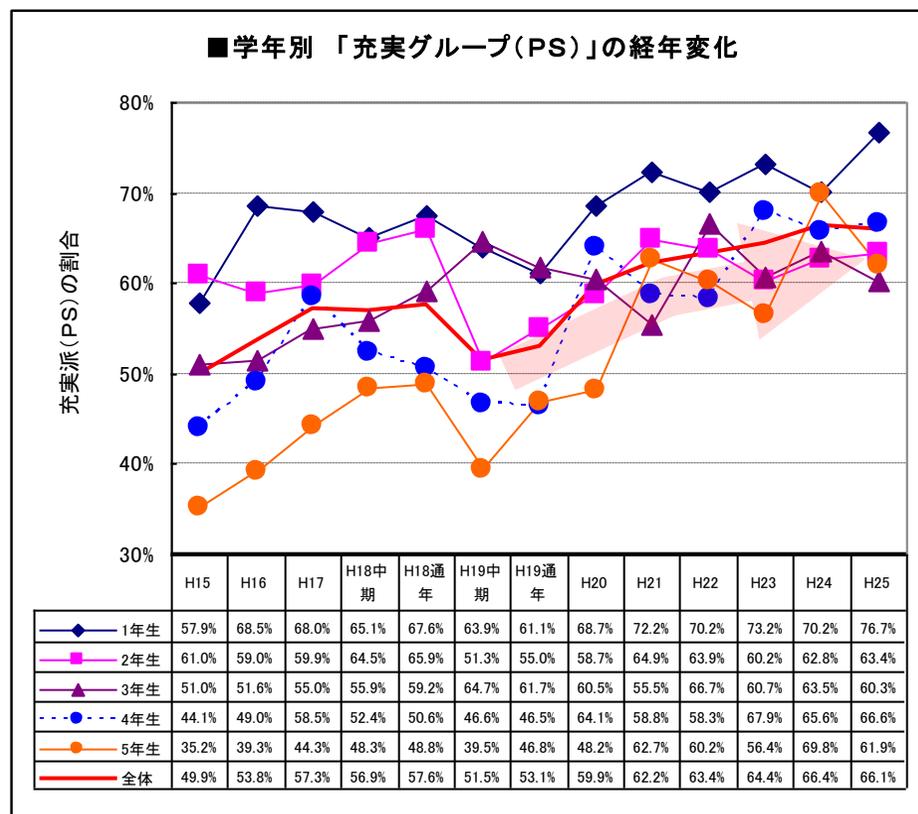
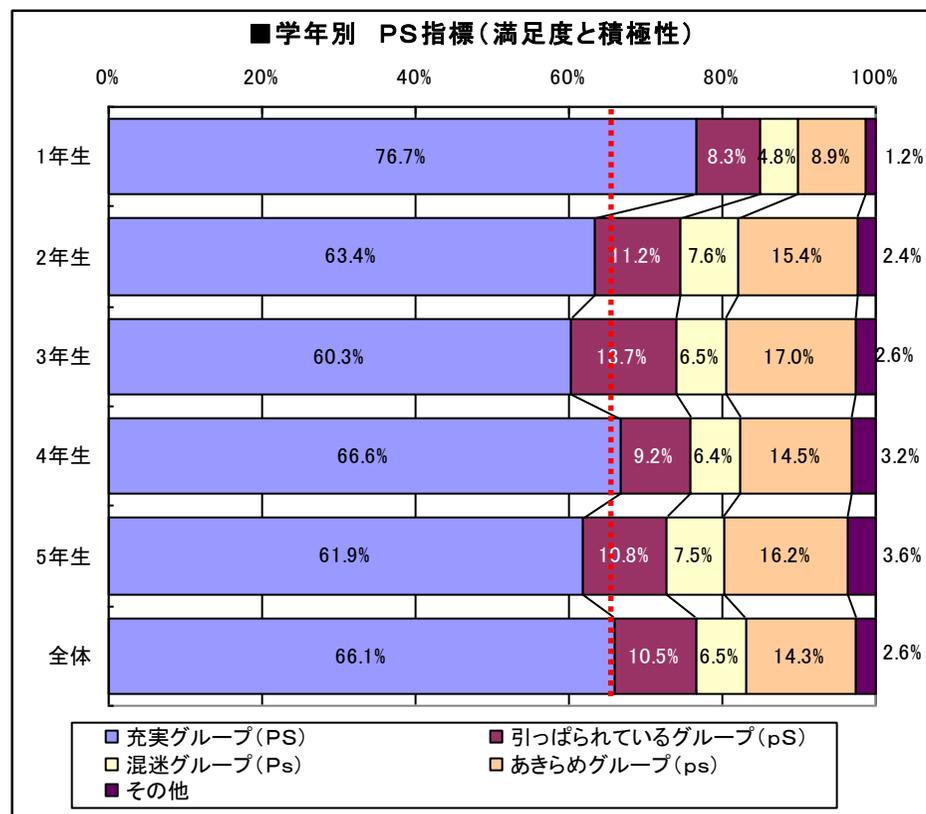
2)部会別 PS指標比較

- 部会別に「PS・充実グループ」の割合を比較したところ、「一般」で72.7%と最も多く、「語学」で68.5%、「G」で65.2%と続いており、「数理」(63.4%)、「M」(63.1%)、「T」(62.6%)の3部会にはあまり差が見られなかった。
- 一方、「ps・あきらめグループ」は「PS・充実グループ」の逆になっているものが多く、「一般」で9.4%と最も少なく、「語学」が14.5%、「G」で14.9%と続いていた。しかし、「PS・充実グループ」で4番目に多かった「数理」は例外で、「ps・あきらめグループ」が17.3%と、一番多かった。また、「ps・引っぱられているグループ」は「T」で12.7%とやや多めだった。
- 「PS・充実グループ」だけを抽出して経年変化を見たところ、「語学」が前回の61.8%から68.5%へと大きく増加している点が特徴的で、「数理」では2.9ポイント、「一般」では0.6ポイント増加していた。一方で減少が大きかったのは「M」の6.9ポイントであり、「T」では1.6ポイント、「G」では1.4ポイント減少していた。全体の平均ではわずかな減少であったが、「語学」の増加と「M」の減少が大きな変化といえる。



3) 学年別 PS指標比較

- 学年別にPS指標を比較したところ、「PS・充実グループ」は「1年生」で76.7%と最も多く、次いで「4年生」で66.6%、「2年生」で63.4%、「5年生」で61.9%となっており、最も少なかったのは「3年生」の60.3%で、「1年生」との差は16.4ポイントであった。
- 「ps・あきらめグループ」が最も少なかったのは「1年生」の8.9%であったが、その他の学年では15%前後で差はそれほど大きくなかった。
- 上記以外の特徴としては、「3年生」で「pS・引っぱられているグループ」が13.7%とやや多かった。
- 「PS・充実グループ」の経年変化を見ると、「1年生」の76.7%は前回より6.5ポイントと大きく増加しており、これまでで最も多くなっていた。そして、「4年生」は前回より1.0ポイント、「2年生」は0.6ポイント増加していた。
- 一方で「5年生」は前回より7.9ポイントと大きく減少しており、「3年生」も3.2ポイント減少していた。



<8> 調査のまとめ

1) 全体傾向、部会別比較、学年別比較

	分野ごとの意見	まとめ
全体傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 学生の77.1%が授業に興味を持って受けたと答えていたが、前回は2.1ポイント下回り、H20以降で初の低下となった。 □ 日常的に勉強しているという回答は44.0%で前回は上回ったが、「しなかった」という回答は以前と同じ程度であった。 □ 授業に積極的に取り組んだという回答は73.2%であり、前回は0.4ポイント下回っていた。 □ 授業に満足という回答は77.3%で、前回は0.8ポイント下回っていたが、これまででは2番目の高さであった。 □ 授業の内容の評価では「教科書、教材、資料など」が高く、「学生の質問への対応」「課題やレポートなど」が続いていた。 □ 「好きな科目である」はH23より継続的に低下していたが、他の変動は少なく、「教科書、教材、資料など」はこれまでで最高であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「授業に興味を持って受けた」は77.1%、「積極的に取り組んでいる」は73.2%、「満足している」は77.3%であり、8割弱の学生は良い状態で授業に取り組んでいると言える。 ▶ 授業に対する「興味」「積極性」「満足度」はいずれもわずかに前回は下回っていた。 ▶ 日常的に勉強しているという割合は44.0%で前回は上回っていた。 ▶ 授業の評価にはあまり変動がなかったが、「教科書、教材、資料など」の評価はこれまでで最高となっていた。
部会別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 「興味」「積極性」「満足度」はいずれも「一般」が最も高く、「数理」と「M」は3指標ともに低めであった。 □ 「宿題、予習、復習時間」は「数理」が最も長く、「試験前だけ」という回答も目立って多かった。 □ 経年変化では「語学」「数理」で前回は上回っているものが見られたが、「M」「G」で低下が大きいようであった。 □ 「一般」で「好きな科目」、「語学」で「質問への対応」、「数理」で「サポートツール」が高いなど、部会により評価が分かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「興味」「積極性」「満足度」はいずれも「一般」が最も高く、「数理」「M」が低めであった。 ▶ 「数理」は授業への評価は低いものの勉強時間が長かった。 ▶ 3指標で見ると、「語学」「数理」が前回は上回り、「M」「G」の低下が大きかった。
学年別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 「興味」「積極性」「満足度」共に「1年生」の高さが目立っており、「3年生」と「5年生」が低めであった。 □ 勉強時間は「1年生」が最も長く、高学年ほど勉強時間が減る傾向が見られた。 □ 前回との比較では、「1年生」が3指標ともに前回は上回っていた。他に「2年生」の「積極性」、「4年生」の「満足度」が前回は上回った。 □ 授業の内容評価では「1年生」がすべての項目で最も高く、「4年生」がやや低めであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「興味」「積極性」「満足度」ともに「1年生」が高く、「3年生」と「5年生」が低かった。そして、「1年生」だけ3指標ともに前年を上回っていた。 ▶ 勉強時間は「1年生」が最も長く、高学年ほど減る傾向が見られた。 ▶ 授業の評価でも「1年生」がすべての項目で最も高かった。

2) 創造実験・設計の評価、部会別の科目評価、達成度

	分野ごとの意見	まとめ
創造実験・設計	<ul style="list-style-type: none"> □ 「創造実験・設計全体」は3指標ともに「授業全体」を上回っており、「興味」は「M」、「積極性」と「満足度」は「G」が高かった。 □ 「創造実験・設計」は「宿題、予習、復習時間」が短く、特に「G」では50.3%が「しなかった」と答えていた。 □ 3指標の経年変化では「積極性」は横ばいで、「興味」「満足度」は前年より増加していた。部会別では「M」以外は前年を上回った。 □ 「創造実験・設計」の授業内容の評価は全体的に「G」が高めで、「M」は「授業の進め方」が非常に低い点が目立っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「創造実験・設計」は「興味」「積極性」「満足度」のいずれも「授業全体」を上回っていた。そしていずれも前年より評価が上がっていた。 ▶ 「興味」は「M」が高く、「積極性」と「満足度」は「G」が高かった。 ▶ 授業評価は全体的に「G」が高く、「M」の「授業の進め方」に対する評価が非常に低かった。
評価の高い科目	<ul style="list-style-type: none"> □ 「一般」では3指標ともに「文化・芸術・思想Ⅲ」がトップであり、「国語」「保健体育」などが高かった。 □ 「語学」では、「総合英語Ⅰa」「上級英語Ⅰ」「世界事情Ⅰ」「世界事情Ⅱ」「上級英語Ⅱ」「英語スキルズⅢ」の評価が高かった。 □ 「数理」では3指標ともに「応用数学Ⅱ」「基礎数学Ⅱ」「微分積分Ⅰ」「物理・化学Ⅱ」「物理・化学Ⅰ」の順となっていた。 □ 「電気電子工学科(T)」では3指標ともに「メディア情報」「コンピュータⅠ」「創造実験Ⅰ」「インターンシップ」の評価が高かった。 □ 「機械工学科(M)」で評価が高かった科目は「創造設計Ⅳ」で、「卒業研究」は「満足度」以外は高かった。 □ 「グローバル情報工学科(G)」では3指標ともに「英語コンピュータリテラシー」が1位で、「創造実験Ⅰ」が2位であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「一般」では3指標共に「文化・芸術・思想Ⅲ」がトップで、「国語」「保健体育」の評価も高かった。 ▶ 「語学」では「総合英語Ⅰa」「上級英語Ⅰ」「世界事情Ⅰ」「世界事情Ⅱ」「上級英語Ⅱ」「英語スキルズⅢ」が上位であった。 ▶ 「数理」では「応用数学Ⅱ」「基礎数学Ⅱ」「微分積分Ⅰ」「物理・化学Ⅱ」「物理・化学Ⅰ」の順であった。 ▶ 「T」では「メディア情報」「コンピュータⅠ」「創造実験Ⅰ」「インターンシップ」の評価が高かった。 ▶ 「M」では「創造設計Ⅳ」「機械設計演習Ⅱ」の評価が高く、「卒業研究」は「満足度」以外は高かった。 ▶ 「G」では3指標ともに「英語コンピュータリテラシー」が1位で、「創造実験Ⅰ」が2位であった。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> □ 「積極性」「満足度」の両者とも高い「PS・充実グループ」は66.1%で、前回よりわずかに低下したが、良い状態が続いていた。 □ 部会別に「PS・充実グループ」の割合を比較すると、「一般」が最も多く、「語学」「G」と続いていた。 □ 「PS・充実グループ」は「1年生」で最も多く、次いで「4年生」「2年生」「5年生」「3年生」という順となっていた。 □ 「充実グループ」の割合は「2年生」で最低になるケースと、「3年生」で最低になるケースの2つのパターンが見られる。 □ 今回の卒業生は「3年生時」と「5年生時」で「充実グループ」が減少していたが、過去と比較すると変動が少ないグループと言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「充実グループ」は全体の66.1%で、前回よりわずかに低下していたが、良い状態が続いている。 ▶ 「一般」で「充実グループ」が多く、「語学」「G」と続いていた。 ▶ 「1年生」で「充実グループ」が最も多く、「2年生」で最低になるケースと「3年生」で最低になるケースの2つのパターンが見られるが、今回の卒業生は「3年生」と「5年生」の2回の落ち込みが見られた。

3)全体のまとめ

<p style="text-align: center;">全体傾向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「授業に興味を持って受けた」は77.1%、「積極的に取り組んでいる」は73.2%、「満足している」は77.3%であり、8割弱の学生は良い状態で授業に取り組んでいると言える。 ■ 授業に対する「興味」「積極性」「満足度」はいずれもわずかに前回を下回っていた。 ■ 日常的に勉強しているという割合は44.0%で前回を上回っていた。 ■ 授業の評価にはあまり変動がなかったが、「教科書、教材、資料など」の評価はこれまでで最高となっていた。 	<p style="text-align: center;">創造実験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「創造実験・設計」は「興味」「積極性」「満足度」のいずれも「授業全体」を上回っていた。そしていずれも前年より評価が上がっていた。 ■ 「興味」は「M」が高く、「積極性」と「満足度」は「G」が高かった。 ■ 授業評価は全体的に「G」が高く、「M」の「授業の進め方」に対する評価が非常に低かった。
<p style="text-align: center;">部会別傾向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「興味」「積極性」「満足度」はいずれも「一般」が最も高く、「数理」「M」が低めであった。 ■ 「数理」は授業への評価は低いものの勉強時間が長かった。 ■ 3指標で見ると、「語学」「数理」が前回を上回り、「M」「G」の低下が大きかった。 	<p style="text-align: center;">評価の高い科目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「一般」では3指標共に「文化・芸術・思想Ⅲ」がトップで、「国語」「保健体育」の評価も高かった。 ■ 「語学」では「総合英語Ⅰa」「上級英語Ⅰ」「世界事情Ⅰ」「世界事情Ⅱ」「上級英語Ⅱ」「英語スキルズⅢ」が上位であった。 ■ 「数理」では「応用数学Ⅱ」「基礎数学Ⅱ」「微分積分Ⅰ」「物理・化学Ⅱ」「物理・化学Ⅰ」の順であった。 ■ 「T」では「メディア情報」「コンピュータⅠ」「創造実験Ⅰ」「インターンシップ」の評価が高かった。 ■ 「M」では「創造設計Ⅳ」「機械設計演習Ⅱ」の評価が高く、「卒業研究」は「満足度」以外は高かった。 ■ 「G」では3指標ともに「英語コンピュータリテラシー」が1位で、「創造実験Ⅰ」が2位であった。
<p style="text-align: center;">学年別傾向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「興味」「積極性」「満足度」ともに「1年生」が高く、「3年生」と「5年生」が低かった。そして、「1年生」だけ3指標ともに前年を上回っていた。 ■ 勉強時間は「1年生」が最も長く、高学年ほど減る傾向が見られた。 ■ 授業の評価でも「1年生」がすべての項目で最も高かった。 	<p style="text-align: center;">達成度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「充実グループ」は全体の66.1%で、前年よりわずかに低下していたが、良い状態が続いている。 ■ 「一般」で「充実グループ」が多く、「語学」「G」と続いていた。 ■ 「1年生」で「充実グループ」が最も多く、「2年生」で最低になるケースと「3年生」で最低になるケースの2つのパターンが見られるが、今回の卒業生は「3年生」と「5年生」の2回の落ち込みが見られた。



＜全体のまとめ＞

1. 授業に対する「興味」「積極性」「満足度」はいずれも前年をわずかに下回ったものの、8割弱が肯定的な意見で、日常的に勉強しているという学生は前回を上回っていた。
2. 「一般」の科目への取組姿勢が最も良く、「数理」「M」が低かった。ただし、勉強時間が長いのは「数理」であり、「語学」とともに取り組み姿勢は良くなってきていた。
3. 「1年生」は授業への取り組み姿勢が最も良く、唯一、前年を上回っていた。勉強時間も「1年生」が最も長く、高学年ほど減る傾向が見られた。一方、「3年生」と「5年生」の取り組み姿勢は低めであった。
4. 「充実グループ」は前回よりもわずかに減少したが、全体の7割弱を占めていた。学年による変化を見ると、「2年生」で最低になるケースと「3年生」で最低になるケースがあるようであった。

4) 全体の状態

<良い点>

中だるみ

- ・以前より中だるみによる意識の低下があり、それは現在も続いているが、中だるみの時の落ち込みが少なくなる傾向が見られた。
- ・H24の卒業生にはほとんど中だるみが見られなかったが、今回の卒業生の中だるみも小さかった。
- ・「2年生」で最低になるケースと「3年生」で最低になるケースがあり、その差や特徴を探ることも必要だと思われる。

勉強時間

- ・3指標はわずかに前回は下回っていたが、日常的に勉強に取り組む学生の割合は増加しており、勉強をする雰囲気ができているのではないかと思われる。
- ・低学年ほど自宅で勉強していることから、今後の経年変化に興味をわく点と言える。

「中だるみ」の実態
(個人のモチベーションやクラスの雰囲気)
の把握は大きな課題だと思われる。

H24の卒業生には
中だるみが見られ
ず、ヒントになる？

自宅で勉強をさせる
ようなカリキュラムに
なってきている？

<課題のありそうな点>

全体傾向

- ・「興味」「積極性」「満足度」は横ばいとは言え、わずかに前年を下回っていた。
- ・課題を持っていそうな学生が全体の2割を占めていたが、この数値をどう考えるか？目標値をどこに定めるのか？の検討が必要と思われる。

部会別

- ・「数理」と「M」の満足度が低めであり、経年変化では全体的に「M」「G」の低下が大きめであった。
- ・「数理」は3指標ともに低めであったが、日常的に勉強に取り組む学生は多く、満足度が低いながらも勉強時間は割いているという様子が見えた。

学年別

- ・「1年生」以外はすべての学年で前回は下回っていた。特に「3年生」と「5年生」が低めであった。

8割の学生が充実しているということで
良いのかをしっかりと考える必要があると
思われる。

<全体の傾向>

- H20以降は「興味」「積極性」「満足度」のいずれも増加傾向が続いていたが、今回はわずかに前回は下回っていた。ただし、ここ数年の変化は横ばいで、おおむね8割が良い状態で授業を受けており、2割が何らかの課題を持っているという状態が続いている。
- 日常的に勉強をしている学生の割合は前回は上回って改善が継続していたが、高学年ほど勉強時間が減る傾向が見られた。
- 学年別には「1年生」の授業への取り組み姿勢の高さが目立っており、日常的に勉強している割合も高く、今後、注目していくべき学生群と言える。
- 今回は「一般」の科目への取り組み姿勢が良かったが、「M」「G」などの専門系への取り組み姿勢の低下が大きかった。

平成25年度

KTC授業アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 平成26年5月28日
- 発行者 金沢工業高等専門学校
- 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
- 編集 金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁